

個別施設計画一覧表(橋梁)

【更新年月日：令和3年1月22日】

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点 からの 距離 (km)	建年 設年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計 荷重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸 からの 距離(km)	施設の現況			計画内容				優先 度	措置記録				備考			
																				点年実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時 期		対策費用 (概算:百万円)	実施 年月日	内容			再判定実施 年月日	再判定区分	
																								分類	概要(数量)					分類	概算(数量)				
1		小杉原線	自動車道2級	無名橋(小杉原線1)	賀茂郡松崎町小杉原	0.53	1970年	50	RC橋	RC床版橋			河川	4.15	4.45	RC単純床版橋	重力式	—	4.6	H32.8.3	II	橋台に剥離	R3~R7	補修	断面修復工	R4	0.7	中							
2		小杉原線	自動車道2級	無名橋(小杉原線2)	賀茂郡松崎町小杉原	0.55	1970年	50	RC橋	RC床版橋			河川	4.25	4.60	RC単純床版橋	重力式	—	4.6	H32.8.3	II	床版に鉄筋露出	R3~R7	補修	断面修復工	R4	0.9	中							
3		湯沢線	自動車道2級	無名橋(湯沢線1)	賀茂郡松崎町池代	1.10	1973年	47	RC橋	RC床版橋			河川	4.00	4.20	RC単純床版橋	重力式	—	8.9	H32.8.3	II	床版に鉄筋露出	R3~R7	補修	断面修復工	R5	0.7	中							
4		湯沢支線	自動車道2級	湯沢橋(湯沢支線1)	賀茂郡松崎町池代	0.01	1971年	49	PC橋	PC桁橋			河川	11.20	5.60	PC単純中空床版橋	重力式	—	8.6	H32.8.5	I	—	R3~R7	点検	—	R7	0.5	低							
5		湯沢支線	自動車道2級	無名橋(湯沢支線2)	賀茂郡松崎町池代	0.43	1971年	49	RC橋	RC床版橋			河川	5.70	3.90	RC単純床版橋	重力式	—	8.4	H32.8.4	II	床版に鉄筋露出	R3~R7	補修	断面修復工	R5	0.7	中							
6		湯沢支線	自動車道2級	無名橋(湯沢支線3)	賀茂郡松崎町池代	0.53	1972年	48	RC橋	RC床版橋			河川	5.40	4.10	RC単純床版橋	重力式	—	8.4	H32.8.4	II	橋台に剥離	R3~R7	補修	断面修復工	R5	0.7	中							
7		湯沢支線	自動車道2級	無名橋(湯沢支線4)	賀茂郡松崎町池代	0.71	1972年	48	RC橋	RC床版橋			河川	5.40	4.00	RC単純床版橋	重力式	—	8.5	H32.8.4	II	橋台に剥離	R3~R7	補修	断面修復工	R5	0.7	中							
8		下広ヶ原線	自動車道3級	無名橋(下広ヶ原線1)	賀茂郡松崎町岩科北側	0.06	1978年	42	RC橋	RC床版橋			河川	5.50	3.50	RC単純床版橋	重力式	—	7.0	H32.8.6	I	—	R3~R7	点検	—	R7	0.5	低							
9		白川富貴野線	自動車道2級	無名橋(白川富貴野線1)	賀茂郡松崎町門野	2.20	1987年	33	RC橋	RC床版橋			山地	7.40	3.40	RC単純床版橋	重力式	—	5.5	H32.8.5	I	—	R3~R7	点検	—	R7	0.5	低							
10		青野八木山線	自動車道2級	無名橋(青野八木山線1)	賀茂郡松崎町岩科北側	0.47	不明	不明	PC橋	PC桁橋			河川	7.00	4.00	PC単純I桁橋	石積	—	5.3	未実施	—	—	R3~R7	更新	橋梁建て替え	R5	20.0	低							点検・診断を 更新後に実施 更新は県営工 事で行う

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	小杉原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(小杉原線1)
施設の所在地	賀茂郡松崎町小杉原	起点からの距離	0.5km	建設年度	1970年
供用年数	50	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.15m		幅員(車道幅員)	4.45m (4.15m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	4.6km			
施設の目的 利用実態等	小杉原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。						
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月3日					
	調査結果	橋台に剥離が確認された。放置しても(無筋コンクリートのため)内部鋼材が腐食するなど、劣化が進展することは見込まれない。					
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	はつり調査後の埋め忘れが考えられる。					
長寿 命化 計画 の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	断面修復工による補修を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。				
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円					
管理 方法	管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)			0.2			0.5				
対策の内容・実施時期			補修工			定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	小杉原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(小杉原線2)
施設の所在地	賀茂郡松崎町小杉原	起点からの距離	0.6km	建設年度	1970年
供用年数	50	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.25m		幅員(車道幅員)	4.60m(4.28m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	4.6km		
施設の目的 利用実態等	小杉原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業者等により頻繁に利用されている。また、森林所有者や狩猟者の利用も見られる。					
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月3日				
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。放置すると鉄筋腐食が進展することが見込まれる。				
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	かぶり不足による鉄筋露出が考えられる。				
長寿 命化 計画 の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	断面修復工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用 (概算)	断面修復工 約400千円				
管理 方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)			0.4			0.5				
対策の内容・実施時期			補修工			定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	湯沢線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(湯沢線1)
施設の所在地	賀茂郡松崎町池代	起点からの距離	1.1km	建設年度	1973年
供用年数	47	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.00m		幅員(車道幅員)	4.20m (3.80m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	8.9km		
施設の目的 利用実態等						
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月3日				
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。放置すると鉄筋腐食が進展することが見込まれる。				
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	かぶり不足による鉄筋露出が考えられる。				
長寿命化計画の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	断面修復工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。			
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円				
管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.2		0.5				
対策の内容・実施時期				補修工		定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	湯沢支線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯沢橋(湯沢支線1)
施設の所在地	賀茂郡松崎町池代	起点からの距離	0.0km	建設年度	1971年
供用年数	49	種別	PC橋	型式	PC桁橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.20m		幅員(車道幅員)	5.60m (5.10m)
	施設の構造等	上部工型式	PC単純中空床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
		橋脚工型式	—		海岸からの距離	8.6km
施設の目的 利用実態等						
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月5日				
	調査結果	舗装のひびわれや防護柵の腐食が確認された。				
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化によるひびわれ・腐食が考えられる。				
長寿命化計画の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和7年度に実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円				
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	湯沢支線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(湯沢支線2)
施設の所在地	賀茂郡松崎町池代	起点からの距離	0.4km	建設年度	1971年
供用年数	49	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.70m		幅員(車道幅員)	3.90m (3.60m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	8.4km			
施設の目的 利用実態等							
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月4日					
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。放置すると鉄筋腐食が進展することが見込まれる。					
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	かぶり不足による鉄筋露出が考えられる。					
長寿 命化 計画 の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	断面修復工による補修を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。				
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円					
管理 方法	管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.2		0.5				
対策の内容・実施時期				補修工		定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	湯沢支線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(湯沢支線3)
施設の所在地	賀茂郡松崎町池代	起点からの距離	0.5km	建設年度	1972年
供用年数	48	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.40m		幅員(車道幅員)	4.10m (3.60m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	8.4km			
施設の目的 利用実態等							
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月4日					
	調査結果	橋台に剥離が確認された。放置しても(無筋コンクリートのため)内部鋼材が腐食するなど、劣化が進展することは見込まれない。					
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	はつり調査後の埋め忘れが考えられる。					
長寿 命化 計画 の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	断面修復工による補修を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。				
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円					
管理 方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。						

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.2		0.5				
対策の内容・実施時期				補修工		定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	湯沢支線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋(湯沢支線4)
施設の所在地	賀茂郡松崎町池代	起点からの距離	0.7km	建設年度	1972年
供用年数	48	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.40m		幅員(車道幅員)	4.00m (3.60m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	8.5km			
施設の目的 利用実態等							
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月4日					
	調査結果	橋台に剥離が確認された。放置しても(無筋コンクリートのため)内部鋼材が腐食するなど、劣化が進展することは見込まれない。					
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	はつり調査後の埋め忘れが考えられる。					
長寿命化計画の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	断面修復工による補修を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から5年程度以内に対策を実施することが望ましいため、令和4年度に実施予定とする。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 予防保全段階のため、優先度は「中」とした。				
	対策費用 (概算)	断面修復工 約200千円					
管理方法	長寿化対策として補修工を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。						

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)				0.2		0.5				
対策の内容・実施時期				補修工		定期点検				

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	下広ヶ原線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	無名橋(下広ヶ原線1)
施設の所在地	賀茂郡松崎町岩科北側	起点からの距離	0.1km	建設年度	1978年
供用年数	42	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.50m		幅員(車道幅員)	3.50m (3.00m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	7.0km			
施設の目的 利用実態等							
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月6日					
	調査結果	損傷は確認されなかった。					
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
	劣化原因	—					
長寿命化計画の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	定期点検を行う。					
	実施予定時期	令和7年度に実施する。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。				
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円					
管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。						

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号番号		施設管理者	賀茂郡松崎町
路線名	白川富貴野線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名棧道橋(白川富貴野線1)
施設の所在地	賀茂郡松崎町門野	起点からの距離	2.2km	建設年度	1987年
供用年数	33	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	山地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.40m		幅員(車道幅員)	3.40m (3.00m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	無
		支承形式	エラストイト		塗装使用の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	5.5km			
施設の目的 利用実態等							
施設の 状態等 の概要	点検診断日	平成32年8月5日					
	調査結果	防護柵に変形が確認された。					
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
	劣化原因	外的要因による変形が考えられる。					
長寿命化計画の 内容	計画期間	令和3年度～令和7年度					
	内容	定期点検を行う。					
	実施予定時期	令和7年度に実施する。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 健全のため、優先度は「低」とした。				
	対策費用 (概算)	定期点検 約500千円					
管理 方法	管理方法	長寿化対策として5年に1回の定期点検を行う。					

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
対策費用(百万円)						0.5				
対策の内容・実施時期						定期点検				

備考										

＜別紙3＞個票(橋梁・記載例)

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号番号		施設管理者	松崎町
路線名	青野八木山線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋1
施設の所在地	松崎町岩科北側	起点からの距離	0.47km	建設年度	
供用年数		種別		型式	
道路橋示方書		橋格(設計荷重)		橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m		幅員(車道幅員)	3.6m(2.6m)
	施設の構造等	上部工型式	鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
			支承形式	—	落橋防止の有無	—
		橋台工型式			基礎形式	石積
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	

施設の目的利用実態等
林道青野八木山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は林業事業体により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年8月上旬実施	
	調査結果	—	
	健全性の診断結果	—	—
	劣化原因	—	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	橋梁の建て替えを行う。	
	実施予定時期	県営林道事業により青野八木山線の改築を行っており、当事業内で令和5年度に建て替えを行う予定である。また、建て替え後に点検診断を行う。	
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) すでに建て替えの予定であるため、優先度は「低」とした。
	対策費用(概算)	建て替え 約 20,000千円	
管理方法	建て替え後に点検を行い、その後は他の橋梁と合わせ5年ごとに定期点検を行う。		

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
対策費用(百万円)			20.0	0.2	0.2					
対策の内容・実施時期			更新	点検	定期点検					

備 考